

農林業系副産物等処理実証事業（福島県鮫川村）有識者委員会（第2回）の議事概要

1. 日時：平成26年1月27日（月曜日）9時～11時
2. 場所：あすか会議室 303D
3. 出席者
（委員）別紙資料（有識者委員会 委員名簿）参照
（環境省）山本廃棄物対策課長、是澤室長、石田補佐、福島補佐、菅野補佐、南補佐
（日立造船株式会社）三野統括本部長、家山開発センター長、下手運営ビジネスユニット長、堀運営大阪管理部長、横田開発センター部長代理

4. 議事概要

（1）修理・改良工事及び教育訓練の実施状況について

- 日立造船株式会社より、修理・改良工事の実施状況、教育訓練の実施状況及び習熟度の評価について説明がなされた後、質疑及び意見交換がなされた。その際に出された主な意見は以下のとおりである。
 - ・設備改良は進んだので、運転操作に関して想定される問題点について、しっかりと再確認すること。
 - ・一酸化炭素の検知器等について、適切な警報レベルを設定するとともに、現場が判断に困らないよう警報発報時におけるチェック項目と対応手順を再確認して整理しておく。
 - ・現場職員が上下関係を気にせず、お互いに感じたことを伝え合える職場の雰囲気を作ること。
 - ・作業員の気づきをすくい上げる仕組みが重要であり、危険予知活動及びその教育は継続し、充実させること。

（2）確認運転について

- 日立造船株式会社より、確認運転の要領について説明がなされた後、質疑及び意見交換がなされた。その際に出された主な意見は以下のとおり。
 - ・炉内でのクリンカの発生を防ぐため、流動性の確保がポイントとなるので、その点に十分留意すること。また、焼却対象物の組合せ等を工夫すること。
 - ・各種点検窓の目視確認は極めて重要であり、灰出し時の確認を含めて当該確認を運転作業員に徹底させること。
 - ・炉内圧力の変動は特に留意する必要がある、負圧の確認を運転作業員に徹底させること。
 - ・焼却対象物の負荷（焼却時間・時間当たりの焼却量）を上げていく際には、燃焼状況を十分確認しながら慎重に取り組むこと。
 - ・今回の確認運転中に焼却しない処理対象物を焼却する際の運転の考え方について整理しておくこと。
- 今後の進め方として、本日の意見を踏まえて、教育訓練、確認運転等を実施することとされた。
- 確認運転については、運転実施中に委員による現地確認を行い、指導・助言を受けながら進めるとともに、その結果について委員に確認いただくこととされた。

農林業系副産物等処理実証事業（福島県鮫川村）
有識者委員会 委員名簿（五十音順、敬称略）

平成26年1月現在

委員長 川本 克也 国立大学法人 岡山大学 大学院
環境生命科学研究科 教授

清水 修二 国立大学法人 福島大学
経済経営学類 教授

山下 正芳 公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団
技術部 部長

若倉 正英 独立行政法人 産業技術総合研究所
安全科学研究部門 研究顧問

渡辺 信久 大阪工業大学 工学部
環境工学科 教授